

中華街校外実習レポート

外国語学部 中国語学科3年

秋山ゼミナール・山本海渚・中庭琴美・盛田菜々美・長谷川美空

こんにちは、中国語学科、秋山ゼミです。コロナ禍で対面授業があまり行われないなか、留学にも行けず3年生になり、自分たちで企画した初めての校外学習として中華街を訪ねました。この記事では、関帝廟という建物を中心に、それぞれが感じ、思ったことを書きます。

ゼミでの今回の活動を通して、初めて大学生になった実感が湧き、学ぶこと、感じることも多い校外学習になりました。コロナウィルスによって私たちの通常の学びに空白の1年半ほどが生じたことは、とても悔しいですが、残りのゼミ生活を通して、より多くのことを学び、中国語圏についての関心を深めていきたいと感じました。



関帝廟の入り口

読者の皆様も是非、中国語圏や中華街への関心を深めていただけると幸いです。私たちの生の声を楽しんでいただください。
(山本 海渚)

この夏は大変な猛暑でした。この日も気温が35度を超え、皆が暑さで疲れているなか、正午頃に関帝廟に到着しました。関帝廟は中華街に突如現れ、大きく、煌びやかな建物と荘厳な雰囲気には圧倒されました。私達以外にも観光で訪れる方も居て、それぞれが写真を撮ったり、参拝されたりしていて、とても暑い中でも関帝廟は賑わっていました。門をくぐると関帝廟の説明をしてくださる台湾出身の方が私達を迎え入れてくれました。参拝の仕方や注意事項を丁寧に伝えてくださった後、私達はい実際に参拝しました。建物は線香の香りに包まれていて、少し薄暗く、真ん中と左右にそれぞれ像が祀られていました。それぞれの像達は派手な色使いで華やかな印象を受け、日本の神社とは建物も含めて全く印象が違っていると感じました。関帝廟では祀られている像によって健康運や仕事運、恋愛運などのもたらしてくれるものが違っていて、私達はそのそれぞれを順番に礼拝しま

した。

関帝廟を実際に参拝し、日本と似ている部分があれば全く違う部分もあると知り、とても興味深いと思いました。雰囲気は全く違うため、日本に居るにも関わらず、まるで外国にいるような感覚でした。コロナによる渡航制限が続くなか、このような体験を得られて、とても素晴らしい時間を過ごすことができました。
(中庭 琴美)

関帝廟の参拝方法は、今までに行った日本の神社などの参拝方法とは大きく異なっていました。まず5本の線香を持ち、それぞれに火をつけます。この時の線香がよくお墓参りなどで使用する線香のようなサイズではなく、手持ち花火のようなサイズだったためとても驚きました。その5本の線香を、外にある5つの香炉にそれぞれ1本ずつ差していきます。5つの香炉にはそれぞれ数字がふられていて、その順番通りに参拝する必要があります、香炉によって効力も異なるため、手順が多くとても大変だと思いました。また、線香を差す前に3回おじぎをする必要があり、日本ではお参りの際には「二礼二拍手一礼」が主流であるため、少し



関帝廟で引いたおみくじ

慣れない感覚がありました。外で行う参拝が終わり廟の中に入ると、またいくつか参拝しなければいけない場所があり、それぞれ順番に参拝しました。普段の何倍も時間をかけて参拝を行ったため最終的にはかなり疲れてしまいました。が、大学周辺の地域で中国式の参拝方法を経験する機会は貴重だと感じたため、とても良い経験だと思いました。

（盛田 菜々美）

参拝をした後に、私たちはおみくじを引きまし

た。日本でのおみくじは、番号の書かれた棒の入った筒を振り、出てきた番号で近くにある引き出しなどからおみくじを取り出します。あるいは、賽銭箱のついた箱からおみくじを引くというやり方もあります。しかし、中国でのおみくじは日本の方式とは異なります。



実際に参拝をおこなった香炉

まず初めに、学業や恋愛、健康など、どんな事を占いたいかで場所が違います。占いたいことを決めたなら、そこに置かれている「籤桶」といわれるおみくじ棒の入っている器を持ち、生年月日や氏名、住所、願い事を心の中で告げ、自然におみくじ棒が出てくるまで籤桶を振ります。出てきた後、本当にその番号がふさわしいのかを判断するために「神筭」（しんばえ）といわれる三日月形の神具を2つ、床に落として判断します。この時、2つの神筭が表と裏になる必要があります。もし、2つが同じ面になってしまったら、最初の籤桶からおみくじ棒を出すところからやり直します。1日に3回やり直せるチャンスがありますが、もし表と裏にならないければ、その日はおみくじを持ち帰れません。

今回、ゼミ生のほとんどが恋愛のおみくじをして、全員無事に持ち帰ることができました。実際に、私は中吉が出ました。内容はあまり良くないようにも感じましたが、せっかくなので持ち帰り

ました。なかには、凶が出ている人もいて、その人は、おみくじを結んで帰るのではなく、燃やして帰りました。

中国と日本のおみくじだけで、持って帰れない場合もあるということや、やり直しがあることなど、こんなにも違いがある事に驚きました。私たちの身近な環境の中に、中国について学べる場がたくさんあることを実感した校外実習となりました。

（長谷川 美空）